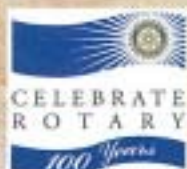


米山梅吉記念館 館報

2004
(平成16年)

秋

Vol. 4



ポール・ハリス来日

1935 (昭和10年) 東京



鹿島精一氏 小林雅一氏

宮本常次郎氏 米山梅吉翁 ポール・ハリス氏 徳川家達氏 斎藤 実氏 ボブ・ヒル氏

1935年、フィリピンのマニラで開催される第5回太平洋地域大会に参加する途中、ポール・ハリス夫妻が日本に立ち寄った。荒天のため当初の予定より遅れたが、ロータリークラブ生みの親ポール・ハリスの来日とあって、日本側は出来る限りの礼をつくして一行を歓待した。

このとき、初めて米山梅吉とポール・ハリスは顔を会わせた。福島喜三次に誘われてダラスロータリークラブに参加して以来、フェローシップをもとに集うロータリークラブを日本にも作りたいと思い続けた米山が、その夢を実現し東京ロータリークラブが誕生したのが1920年。初めて対面した両者であったが、奇しくも海を隔てて同じ年に生まれ、ロータリークラブを通じて会した二人には、言葉では到底言い表せないほどの思いがお互いの心の中に湧きあがったであろうと察せられる。

ポールは来日の記念に月桂樹の植樹を行なったが、この木を挿し木にした2代目の月桂樹が、現在も米山梅吉記念館の庭で私たちを見守っている。



財団法人 米山梅吉記念館

理事長 内藤成雄

記録破りの真夏日連続の夏でした。しかも各地に集中豪雨の被害、台風の影響等々、おぞましいニュースばかりでしたが、僅かアテネオリンピックの明るいニュース、日本勢の活躍がたのもしく、この地球の大運動会が心を癒してくれました。お変わりありませんか。

米山梅吉記念館もおかげさまで順調な歩みを続けており、9月の館創立35周年の記念行事の準備に忙殺されております。中でも大洞信先生の特刊『梅吉と35周年記念館』は目玉となりそうです。

記念誌は井口賢明委員長の下で大体の構想が決まり、単なる報告誌でなく米山翁の業績ごとくに日本ロータリーの献納の黎明期、知られざる逸話等を更に発掘し、今までのものに乗せできる米山翁研究史にと意欲を燃やしています。日本ロータリー創生誌、米山梅吉と福島喜三次河氏の出会い(大正7年1918)から数々の交遊を、文庫や資料により決定版に近く井口委員長が書かれております。

米山梅吉という偉大な人は日本の財界、教育界、社会奉仕の世界で実に偉く、調べていけばいくほど新発見が見られて驚きます。案外知られていない米山翁の富士山気象観測史上の偉業を載せた話などぞれです。富士山頂にあった気象観測所を予知するための気象観測所の歴史は明治28年、野中朝一、千代子夫妻の私設観測所建設に始まります。その後10数年の中断を経て気象台の佐藤一技が活躍します。この人は、山階宮のスポンサーを得て明治40年頃に故山に気象観測所を建て所長になりますが、常にこの富士山頂施設を国の施設として運動した人です。遂に報いられて昭和7年頃の観測所が

建設されます。図の予算がついた本格的な観測所はここからです。これが昭和29年の富士山レーダードームに引き継がれていらい35年経ち、平成10年、衛星にその役目を譲り引退します。そのドームは今山梨県富士吉田市に隣接されて歴史館となって復元しております。



富士吉田市に完成した富士山レーダードーム館
この長い歴史をつないだ功績に三井物産米山理事長の奉仕があるのです。というのには昭和7年に建設された山頂の観測所は、至8年に予算が打ち切れ停止の運命に立ちたりました。この時米山理事長のおかげで三井物産の補助が決まり、国の予算再開の昭和12年までの毎年の運営が可能になったのです。こんなことは米山梅吉物語の中でもあまり知られていないことなので書かせて貰いました。

全国のロータリアンにお願いした1年1人100円募金運動は、おかげさまで2003(7月)〜2004(6月)で4,875,807円を頂戴することができ館事業運営の大きな力となっておりますこと、御報告ありがとうございます。今後共何卒よろしくお願い申し上げます。

いよいよ秋の行楽シーズンが始まります。ご来館を心からお待ちしております。
館報第4号をお届けいたします。

米山梅吉記念館と富士山へどうぞ

常務理事 伊藤文平

来る8月21日、酷暑の続く中、今年度の理事、評議員会が開かれました。館運営の財政収入のほとんどもは次の3つの寄付金によってまかなわれています。

- ① 全国ロータリアン1年1人100円募金
- ② 全国ロータリークラブの周年記念等や業継者のスマイル等
- ③ 2620地区(山梨・静岡) 2590地区(横浜・川崎) 2780地区(神奈川県)よりの寄付金

の3つが各々約500万円づつで収入の90%を占めています。特に1人100円の細い糸が全国を結ぶと「羅網」にも書いてありますが、今や太い絆となっております。会員1人当りの金額で50円を超える地区は多い順に2530(徳島) 2820(茨城) 2640(大阪府) 和歌山) 2680(兵庫) 2720(熊本・大分) 2620(山梨・静岡) 2520(岩手・宮城) 7地区となり実に全国規模の広範な支持を頂いており、光栄の至りです。

館の創立35周年の今年度はRIの100周年を祝い記念すべき年です。当第2620地区としては100周年記念事業として富士山環境美化事業を行っております。もともとこの地区は「富士山を世界遺産に」という運動を起そうと考えていた時期もありましたが、あまりにも開催され過ぎていくことと、あまりにも閉鎖してしまつたことの二つをクリアしなければならぬとわかってまいりました。米山梅吉翁が昭和8年の富士山頂の気象観測所の廃止に、三井物産として待ったを付けて、存続させたことも明かとなりました。米山梅吉翁が館への来館を全国のロータリアンに呼びかけると共に、世界遺産に指定されない富士山の現状を知って頂くために、静岡・山梨へお出掛け下さい。当館の理事長の内藤PGは、「富士こぶしの会」の会長として富士山の自然を守る運動に永くかかわっております。普通の観光では見えない富士山のありのままを、ご案内できるとおもいます。

RI2620地区

米山梅吉記念館委員会から

委員長 三枝徳造

米山梅吉記念館は、お陰で本年9月創立35周年を迎えました。記念館は、全国のロータリアン、その関係者を受け入れる日本での唯一の施設であります。この施設の円滑なる運営に関係者一同皆様の協力をお願いいたします。その使命を果たすべく理事長を中心に努力を注いでいるところであります。この間、施設及びロータリー文庫の展示等の充実・拡充をすべくきとの強い要望もあって、平成10年新館が建設され、組織も全国規模に拡大いたしました。また、平成14年11月ピチヤイRI会長の公式訪問を機に全国ロータリアンの意識も一層高まり、全国各地からの来館者が増加いたしました。

記念館と最も深い関係にあるRI2620地区(静岡・山梨)は、記念館の円滑な運営を支援するため、地区組織として地区ガバナリーの委員の運営委員24名を選任し、理事長と密接な連携のもと、記念館運営及び各理事、秋季例祭(創立記念)の企画、立案、開催、解散等の情報提供及び来館者の誘致活動、記念館存続例祭、秋季例祭(創立記念)の年2回発行等に支援活動を行っております。

本年は記念館創立35周年記念の年であり、秋季例祭(創立記念)は特別記念行事として行うこととし、運営委員全員が創立35周年実行委員会となり、記念式典及び特別記念講演の開催、更には記念行事として創立35周年記念誌の編集に取り組みしております。

申し上げるまでもなく記念館は財団法人であり、善意の寄附によりその運営に当たっておりますが、資金面で執行部は大家ご苦労をされ、"100円の細い糸が記念館と全国を結ぶ"を合い言葉に"全国1人年間100円募金運動"を展開し、毎年ロータリアン各位にこの運動にご協力いただくようお願いしております。運営委員会も記念館の健全な運営を両面から支援しております。ロータリアンの皆様、どうぞ米山記念館に特段の善意をお寄せください。皆様の記念館です。ぜひご来館いただくことを、関係者一同心よりお待ちしております。



2004年4月29日(木)に恒例の春季例祭が、多数のご来賓をお迎えして行われました。日本基督教団工藤工藤工藤の笹森建美氏による記念講演、アトラクションではピアノ演奏会が行われ、両者の連携にふれる一日でした。

春季例祭



春季例祭



内藤理事長挨拶



飯島百合さんのピアノ演奏
ロータリー財団奨学生(チェコ音道)



笹森建美氏講演

米山節を想んでの参 手前は佐藤前ガバナー



演 題

「心で人を観、接した米山節吉先生」

講 師

日本基督教団工藤工藤工藤の笹森 建美氏

初めに

昨春秋、記念館を訪れた時、たまたまお会いになって理事長先生方とお会いした時、米山先生について講ずる様にとのお話を受けました。

私の父重雄氏は米山先生との距離が近かったです。私も子どもの頃お会いした事がありました。そのような理由で最近米山先生を知る人が少なくなりました。何か話す様にとの事でした。

子どもの頃、私は青山学院の幼稚園に通っていましたが、その時の園長先生が米山先生であり、その後進んだ青山学院小学校の校長先生が米山先生でした。同時に先生は、青山学院同窓会会長であり、理事でもありました。子ども心に夫人は優しい方、先生は威厳と慈愛に満ちた方と感じていました。その時の学院長が私の父でした。



緑ヶ岡幼稚園 第3回卒業式

笹森順造 — 東奥義塾 — 本多庸一 — 米山節吉

米山先生は人格的ふれあいを大事にしていた方でしたが、私の父も、米山先生と深い心の触れ合い、人格関係を築いていた一人でした。また色々な面でお世話になり協力していただきました。父が青山学院の院長になる17年ほど前に最初の出会いがありました。当時、父は弘前市にある東奥義塾の塾長を務めておりました。東奥義塾は米山先生が愛してやまなかった本多庸一今孝田節吉と云う人物と深い縁りの有る学校です。元々は「備古館」という津軽藩の藩校でした。明治維新の時、藩校から私学として生まれ変わった学校です。東奥義塾開学に尽力し第二代塾長になったのが本多庸一

です。本多庸一は優秀な若者として特家を卒業され、落命で靖康に留学しました。朝鮮半島は宣教師たちでした。初めうちは、英語と新しい知識だけを吸収し、その内に取らざるを追い越して見せるとの意気込みを持っていました。しかし宣教師たちとの人格的ふれあいは強く内には、彼らが非常にすぐれた人物であること、日本の武士以上の「武士らしい」人間であることを見いだし感服するようになり、彼らの人格形成を支えているキリスト教を受け入れざるを得なくなりました。ついには洗礼を受けるに到りました。此の時期に洗礼を受けた者が何人がいて日本に新聞を吹きこまれました。

評し難い事は省きますが、東奥義塾の責任を継ぐことになった本多庸一は、たまたま横浜に立ち寄ったアメリカの宣教師イング家法を認得し東奥義塾に招聘されました。本多、イング二人の働きを通して東奥義塾の教育は日を見強める成果を上げ、且つキリスト教への人信者を生み出しました。キリスト教教育、英語を用いた新しい学習の研究、それに日本古来の武士道を織り交ぜた教育は多くの有能な人物を生み出し、何人かの若者たちがこの時期にアメリカに留学しています。その内の一人が節吉田節吉です。

後に本多庸一は、同じメソヂスト系列の青山学院の日本人最初の院長になりました。その影響で、多くの東奥義塾の関係者が青山学院の教員陣に加わり、本多庸一を中心に青山学院の建学の精神を重んじていきました。そこへ登場するのが米山先生です。

東奥義塾は日本中に大きな影響を与えましたが、越後の私学の免れ得ない財政困難により、経余曲折を経て旧校の憂き目を見るに到りました。しかし1922(大正11)年米国メソヂスト教会が、メソヂストの團組ジョン・ウエズレイの記念行事として東奥義塾の再建に乗り出しました。その時再興初代塾長に任命されたのが父重雄順造でした。留学で得た新しい教育理念と武士道精神とキリスト教信仰を取り入れた斬新な教育を目指しましたが、文部省認可校となるための基金が、あとうしても5000円必要で苦勞していた時に、節吉田節吉先生に紹介されたのが米山先生でした。首会いはわずか十分でしたが、相手が信願できる人物であることが互いに感じ、米山先生は即座に不足分すべてを寄付して下さり、父も喜んでそれを受けました。以来深い親交が続くこととなりました。今と違い、かつては心の平穏に触れるものを大事にし友人関係、師弟関係を結んだものですが二人もそうでありました。

米山先生は東奥義塾への広域を続けられた後にも、青森県の為になされたことをして下さりました。

鼠類に悩む浜田農村の救済、村起こし、ハンセン氏病、新結核療法、教育制度の奨励、努力限りありません。先生は単に物品を寄付されるだけでなく、実際に足を運び、当時の不当な強い愛を受けていたハンセン病患者や、農村の子どもたちとも直に接し、心のぬれ合いを大事にしています。日と日、手と手を合わせる事これこそが専任の精神です。



長泉町いずみ公園にある銅像

日本が軍国主義に傾き、第二次大戦に向かいつつある時、青山学院も或る危機的状況を迎えていました。評議会会長、理事として精神面、経済面で青山学院の責任を負っていた米山先生が本多第一先生の精神を継承し、青山学院を立て直す人材として、青山学院の意思ではないという反対があったにも関わらず招聘されたが、菅原頼道でした。父も多くの困難を予測しながら、敢えてその要請を受諾しました。それほどまでに信頼を寄せていた人徳関係の一つの証です。「人は外の顔かたちを(外的条件)見、主(神)は心を(内面的、人物)見る」との聖書の言葉を同じ目標に立つ両者は受け止めていました。

本多第一 — 青山学院 — 米山梅吉

そもそも米山先生が青山学院と関係を持つ様になったのは本多第一先生並びに伊田田巴先生との出会いにありました。米山先生は若い時から新しい日本を拓く大志を抱いていましたが、沼津中学から上京したのは、自由民権運動を提唱し、教育面、社会面、政治面、宗表面と幅広い活躍をしていた本多第一に感服するためであったことはよく知られている通りです。直米のためへの英語習得に専念するため、青学にいたのはわずか

二年ほどでしたが、本多先生、並びに英語を習得してくれた、アメリカ帰りの憧れの伊田田先生との人的なぬれ合いを一生の宝とし、思慮して青山学院のためにも誠心誠意尽くされました。伊田田巴先生とは一生を通じての長い親交を持ちましたが、尊敬してやまない本多第一先生との直感的なぬれ合いは、そんなに頻繁では無かったとのことですが、物別れ期間は少なくとも、重要な人生のターニング・ポイントでのぬれ合いが決定的影響を与えました。心と心の響き相いです。

有名なエピソードはアメリカ留学時代、サンフランシスコの日系教会での出来事です。たまたま訪れた本多先生がそこでややかいかいになっていた若き米山先生に「巧経様、即ち巧みなれど強く、雄なれど速くと、事を急がず、よく考えてフランスよく進みなさい」と教えられたことがあり、実行と決断に急ぎ過ぎる傾向を諭されたわけですが、米山先生はこの言葉を一生忘れませんでした。サンフランシスコでは宣教師ハリス先生との出会いもありました。同様の感化でこの地で洗礼を受けた様です。そして「人にしてほしい」とは人にもそうしなさい」との聖書の黄金律を教えられます。この言葉こそ、日本に米山先生が説くロータリークラブの会費モットーでもあったのです。現代風に云うならば、自分のことと他人のニーズに志をなさいという事です。米山先生は三井懇話会、ロータリークラブを通じ、また私財を投じて人々のために尽くしました。先生にとつて、それは世間に対する感謝でした。米山先生は人は自分の仕事をなすべしと述べています。それを実践されたわけですが、専任とは、高みから何かをしてあげることではなく、喜びを分かち合うこと、人格的暖かいぬれ合いを持つ事です。名譽や、稱賛を考えるのは専任ではないのです。先生は自分は熱心な信印者ではないと謙遜していますが実はそこに本当の信印がにじみ出、神と人に喜ばれるよい業を為されたのだと思います。

本多先生は、未来に成す最大の遺産は幼子、青少年の教育で有るとの事を述べていますが、それを米山先生が受け継ぎ実践したのが、私財を捧げて青山学院に寄附した創設開校初期、小学校でした。そこで学び得た私も幸せだったと思っています。幼少期、小学校の足モットーも「人にしてほしい事は人にもしなさい」でした。米山先生は立派な経済人、社会福祉家、教育者でありましたが、それよりも、なによりも、心と心のぬれ合い、心の目でしっかり人々や事柄を覗、自分も人から覗られることを載せて下さった方だったと思います。

記念誌編集集
余話
(1)

沼津北RC 井口 賢明

ポール・ハリスの来日
及びハリスと米山の胸像

資料を調べていると、さもないことだが、これはという面白いことぶつがある。昭和10年2月9日にポール・ハリスが日本に来た。当初の予定では、2月6日から9日まで日本に滞在するという知り知らせであった。日本では、これにあわせて歓迎の準備をしていた。ところが、嵐で船が遅れに遅れ、横浜港についたのは2月9日の朝5時であった。当初予定の歓迎の準備は、すべてご落胆。遅くなった日曜の中で、ささしいばかりの歓迎行事が行われた。

ここで問題にしようとするもの一つは、東京での歓迎行事のあと一行が関西に向かったのは汽車なのか、乗船してきたブリヂヤント・ターリッソ号なのかである。どうでもいいといえば、どうでもいいことである。日にする大部分の文章は、横浜港から船で神戸に向かい、船中一泊し、京都、大阪の歓迎行事に参加したというものである。山原謙博氏の文章は、「その夜のうちに汽車で京都へ、ついで大阪で歓迎会を受け、(ロータリーの友誼は、07) となっている。英文「東京ロータリーの歴史」は、汽車に乗るため、東京駅に急いだとあるが、それが横浜までか京籠までかわからない。

最近、インターネットで、田中頼氏の「ポール・ハリスの来日」という文章を見た。これには、「この夜、米山記念館の資料の中から、その詳細な記録が見つかりました……」とある。問題の部分については、「午後9時30分、東京駅駅舎の待合室に集まり、午後11時より、京阪神3RC連合の歓迎会に参列」とある。

これを見て、まず前記の部分でびくつきしてしまっただ。この10ヶ月間所収されて、記念館の資料部に入り、資料にあたってはいたが、ついでそのような資料を見たことがなかった。まだまだ資料のあたり方ができてい

ないが根拠たる思いであった。それがどこにあるか事動員に聞いてもわからぬというので、記念館の職員でもある田中氏に確認してもらった。

その結果、その資料は、ガリ版刷りの「日本ロータリー史(7)」であることがわかった。なるほどそのとおりの文章となっている。これまで、ガリ版刷りのことについて、ロータリー日本五十年史を執筆するために編集者が原簿的な資料として作成したものであると理解してきた。ところが、集刊された五十年史では、多くのものと同じように横浜から船で神戸に向かったことになっている。これには頭を捻えてしまった。当初の汽車で行ったという内容が、後に船で行ったという確実な資料でも出てきて変更したというのであろうか。

何が確定する方法はないか。新聞報道ではどうなっているかと地元の高橋通で新聞の縮刷版を見つけた。東京朝日新聞昭和10年2月10日の夕刊に、ポール・ハリス来日の記事が出ている。問題の部分については、「午後9時半東京駅駅舎」というだけである。これだと先のように、横浜駅で降り横浜港で船に乗ったのか、それともそのまま京都まで行ったのかかわからない。

ほぼ2ヶ月前の丹波トンネル開通後の別冊時刻表によれば、東京駅を午後9時30分に出る神戸行きの一、二等客車の急行列車があった。これは、10時丁度には横浜駅着、10分、京阪神には翌朝7時50分に着く(ちなみに、市津駅は午後11時55分着、幸時01分着)。

女子供を含む二十名前後の一行が横浜で汽車から船に乗り換えるのは大騒ぎである。船時間ではできない。わざわざ運賃の滞り船に乗り換える必要があるのではあるろうか。また、一行のためだけに、船の出帆を延ばしてくるだろうが、それよりもなにより、乗船後すぐ船が出たとしても、神戸港に着くのはおそろしく翌日の夕方をはるかに過ぎているであろう。横浜、京都、大

起てる米国

大正7年(題)出版

大正6年、総理大臣の勅命により男爵日賀田種太郎以下8名が、第一次世界大戦後の好景氣に沸くアメリカに政府特派財政経済委員として派遣された。米山梅吉は民間人としてただ一人このメンバーに選ばれ、アメリカの現状を目の当たりにした。この本は、梅吉が帰国後に行なった講演をまとめたものである。

この時代アメリカは「最後の力のオンスまで」と國家國民をあげて戦争に臨み、国のため≠個人のためという姿勢で邁進していた。日清戦争後は、それまでの東方の別天地という日本に対する見方も一変し、欧米と同等度の文明国とみなされ、日本の出兵も熱烈されていた。

90年近く時を経て日本に課せられた宿題が現実となり、今なお世界の中心に立つ米國とそれに追随している日本の現状を、梅吉が見ていたらなんと感じるであろうか。



寄せ書き帳



忙しい仕事の傍ら趣味の世界を楽しむ梅吉の交友関係の広さが窺える。各人が白面像と自作の俳句や漢詩を載せている。梅吉は白面像と共に古武橋新武橋泰一郎に舟を贈っている。この函帳には毎月一度アトリエに人のしよりの一句も載る。

梅吉翁は幼少のころから文学少年で、アメリカから帰国時には新聞記者になろうと思っていた。漢詩、和歌、俳句をたしなみ歌集も何冊か出している。この寄せ書き帳は大正10年、友人たちが集まって書いたものと思われる。寄せ書きしているメンバーは、米山梅吉をはじめアメリカに渡る前からの知り合いである瀧澤龍水(小説家)、巖谷小波(小説家)、和田洋作(画家)、入沢達吉(医師)、随筆家ら。



「梅吉さんでどんな人？」見学に来た小学生も興味津々
学芸員 市川真理

阪の旅行記事に間に合わない。このことを考えると、汽車でそのまま函館に向かったというのが正しいであろうと思った。

その後、ロータリー文庫で、PEREGRINATIONS(副題) VOLUME II を閲覧でき、このことを確定しえた。これは、ポール・ハリス自身の旅行記で、この日本訪問のことも記されている。これには、『朝報』が掲載した京都市内を観光し、ホテルで朝食をとり、自動車で京都市内を観光し、大阪に向かった。大阪での歓迎会、観光の後、自動車で神戸に向かい、「ここで再びブレイジアント・ターラジ号に乗船した。この船は、2日ほど神戸に下船した後函館から直接神戸に向かっていた。」とある。



【梅吉の書庫】
昭和十一年二月九日の朝刊のコラム欄に、こんな記事が出た。
「ロータリー・クラブの創始者アメリカのポール・ハリス博士はマニラの東洋ロータリー大会に出発する途中8日横濱入港の予定だったが船が1日遅れて9日になった。……、ご主人より一足先に、ひよっこりハリス博士の御像が日本に出来あがっていた。同時に煉取っている日本自傳の立体写真製作所の運技師が昨年11月ニューヨークでハリス博士の立体写真を撮影。そのフィルムを巻に送ってきたので御像にしてあったわけである。これを贈った日本のロータリー・クラブ。……ハリス博士には向よりプレゼントであるというので、既に大阪のロータリー・クラブに送り、そこで得意になって贈呈する予定」とあり、その御像の写真も載せてある。

もう一つ、先の新聞記事の朝日、昭和10年2月9日の朝刊のコラム欄に、こんな記事が出た。
「ロータリー・クラブの創始者アメリカのポール・ハリス博士はマニラの東洋ロータリー大会に出発する途中8日横濱入港の予定だったが船が1日遅れて9日になった。……、ご主人より一足先に、ひよっこりハリス博士の御像が日本に出来あがっていた。同時に煉取っている日本自傳の立体写真製作所の運技師が昨年11月ニューヨークでハリス博士の立体写真を撮影。そのフィルムを巻に送ってきたので御像にしてあったわけである。これを贈った日本のロータリー・クラブ。……ハリス博士には向よりプレゼントであるというので、既に大阪のロータリー・クラブに送り、そこで得意になって贈呈する予定」とあり、その御像の写真も載せてある。

ポール・ハリス未日の折、大阪でその御像が贈られたことは、多くの資料にでている。先のポール・ハリスの旅行記にもある。この記事により、そのいきさつ

がわかるというものである。
ところで、このポール・ハリスの御像のことや米山の御像のこと(ポール・ハリスの友 早02.02 前記旅行記)などについて、興味深い文章がある。一つは、父君がこの御像を作ったという盛岡公彦氏の「ポール・ハリス像再見」(ロータリーの友 早02.08)、もう一つは、秋山一氏の「P・ハリス、米山梅吉両氏の御像」(ロータリーの友 早02.06)である(ただし、その情報は、盛岡氏からのものである)。

この文章のなかに、米日の関係られた御像は、ポール・ハリスが未日したとき写真を贈り、それにより制作したという部分がある。これは、先の新聞記事の内容



「……、ご主人より一足先に、ひよっこりハリス博士の御像が日本に出来あがっていた。同時に煉取っている日本自傳の立体写真製作所の運技師が昨年11月ニューヨークでハリス博士の立体写真を撮影。そのフィルムを巻に送ってきたので御像にしてあったわけである。これを贈った日本のロータリー・クラブ。……ハリス博士には向よりプレゼントであるというので、既に大阪のロータリー・クラブに送り、そこで得意になって贈呈する予定」とあり、その御像の写真も載せてある。

昭和10年2月9日 東京朝日新聞

記念誌の頒布について

お知らせ

米山梅吉記念館では、現在創立35周年の事業として、記念誌の発行を準備しています。B5版横組みで、内容としては、「米山梅吉 その生い立ちと人となり」「米山梅吉 そのロータリーとのかかわり」「米山梅吉記念館の歴史」これに「資料」を予定しています。発刊予定は、本年12月末で、予定価格は、2,500円です。ご予約を受付けます。お申し込み、お問い合わせは米山梅吉記念館事務局まで。

米山梅吉記念館のご案内

開館時間

午前10時～午後5時（但し11月～3月は
午後4時まで）

休館日

- 月曜日
- 12月28日～1月4日
- 整理のための休館日



米山記念館及び館報へのご意見、ご感想、寄稿等お寄せ下さい。

米山梅吉記念館報

Vol. 4

発行日 平成16年9月18日
 発行者 財団法人 米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄
 〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
 TEL (055) 986-2946 FAX (055) 989-5101
 印刷 フタバ印刷株式会社